

皆様

8月6日(月)～8日(水)、第6回WHCOB夏合宿が蔵王(宿泊は遠刈田温泉)で行われました。以下、そのご報告です。

連日の熱帯夜とロンドンオリンピックの熱戦のため、何となく寝足りない気分で東京駅から東北新幹線に乗りました。7月26日に梅雨が明けた東北地方も、その後、晴天、真夏日、猛暑日が続いていましたが、どうやら梅雨明け10日の8月4日頃から、天気の変り目に入っていたようです。

新幹線組8名、神戸から空路仙台経由の2名、それにマイカー2台での3名を加えた計13名全員が集めた今合宿のベースキャンプは、遠刈田温泉のペンション「ウッドチャック」。宿の名は北米に住むリスの仲間由来の由来するそうです。とりあえず余計な荷物を置いて、車で一気に刈田山頂レストハウスへ向かいました。

レストハウスに併設された避難小屋は、まるで我々だけのために用意されていたような環境とスペースで、再会の挨拶がてらの楽しい昼食となりました。

今回のメンバーは

3期...小川戸、

4期...菅原(猪間＝サブリーダー)、大竹、徳淵、西海、花田、まとう(日向寺)、
五十嵐

5期...佐藤(高橋)牧子

6期...佐藤徹、杉原(綿貫)

8期...齋藤(＝リーダー)、佐藤憲一

佐藤夫妻と杉原さんはOB合宿初参加で、昨年に比べ平均年次が少し若返りました。

にぎやかに過ごすうちに、「あれッ」、「降ってる」。いつの間にか雨が降り出していました。それでも初日の予定は足慣らして、蔵王のシンボルであるお釜を眺めながら連峰の最高峰・熊野岳(1841m)を往復するだけでしたので、雨具を着けて出発しました。ところが間もなく雨は止んだものの、近くで雷鳴が響き出しました。岩と砂礫で木一本生えていない馬の背状の尾根道では逃げ場がありませんので、雷に押し戻される形でお釜の脇の道を引き返して、刈田岳神社に参拝しました。



ちょうど某相撲部屋が遠刈田温泉で合宿をしており、大きな図体の若い相撲取りが小さな御守りのついた携帯ストラップを買い求めている様子をほほえましく感じました。雷雲が遠のいた刈田岳からは、飯豊、朝日、月山の山々が遠く望まれました。

宿に戻って、早速ひと風呂浴びました。かけ流しではありませんが、温泉成分が入った沸かし湯で、そこそこ広い湯船と洗い場があり、ゆっくりと入ることができました。夕食時間を待ちきれなくて、5時半くらいから小宴会開始。内外の銘酒、珍酒が並び、つまみ類も豊富で、程よくいい気持になったところで、6時半から夕食。改めて生ビールで乾杯のあと、洋食のフルコースに舌鼓を打ちました。





食後は外に出て星博士解説のもとで星空観察会、最近都会では滅多に見ることのない星空ですが、織姫、彦星、北の空のカシオペアや北斗七星に幼いころを思い出しました。



その後、飲み直したり、話やトランプに興じたりして、11時頃にはそれぞれの部屋で眠りにつきました。ただ、約1名は、この夜行われた「なでしこ」の対イタリア戦、アメリカの対カナダ戦を見続けたそうです。

2日目、山の稜線には薄い雲がかかっていましたが、頭上は抜けるような青空でした。6時起床、7時朝食、8時出発。

この日は、「がんばりグループ」5名と「のんびりグループ」8名(五十嵐はこちらです)に分かれ南蔵王の縦走路を歩きました。



まずは両グループ揃って宿の車2台で刈田峠まで送ってもらい、全員での記念撮影の後、不忘岳まで往復するがんばりグループがスタートし、次いで途中の屏風岳までを目指すのんびりグループが同じ縦走路を歩き始めました。クマザサやオオシラビソ、ハイマツの間を行く起伏の多い道ですが、特に急な所はなく、背後に蔵王の中心部、行く先に屏風岳、雲の間から左右の里や街を見下ろしながら歩く快適な道でした。



道の脇にはたくさんの花が咲いていました。今年は都合により花博士が参加されません

でしたが、花准博士女史が次々と唱える花の名は、ざっと挙げても、金黃花(金光花)、深山秋の麒麟草、弟切草、白山防風、蔓竜胆、深山沙蔘、額紫陽花、薄雪草、蝦夷升麻、烏足升麻、苦菜、御前橘、岩菖蒲、深山猪独活、石楠花、山母子というところ。



約2時間歩いて芝草平という高山植物のオアシスに着きました。ここで目に付いたのは綿菅と稚児車。特に稚児車(チングルマ)は、あの可憐な白い花から変身した長い穂が一面に広がる様が不気味なくらいでした。



「よりのんびりチーム」は芝草平で長時間の休憩に入り、「ややがんばりチーム」は屏風岳山頂を目指しました。この道もさほど急ではありませんが、見た目以上に

長くしつこい登りで、ようやく山頂に着くと見覚えのある顔が…「あれッ」、「あれッ」、「もう行って来たの?」、「不忘まで行くことにしたの?」。やや頓珍漢な会話になったのは、思いがけず山頂で休憩中のがんばりグループに追いついたからでした。



ちなみにこの屏風岳(1825m)が宮城県の最高峰であることは、今合宿の企画中に知ったことです。

芝草平に戻って昼食を終える頃、大粒の雨が降り出し、急ぎ雨具を着けて引き返すことにしました。なお、がんばりグループは南屏風山頂での昼食中この雨に遭い、不忘岳往復を断念して戻りました。

幸い雨がそれ以上強まることはなく、周りの山を見たり、花の名前を復唱する余裕を持ちながら(といっても、すぐに忘れてしまった花の名前を訊き直しているだけですが)刈田峠まで戻りました。往復約6時間の間、行き交った人は10人にも満たない静かな山でした。

山の中ではさほどのんびりできなかった「のんびりグループ」が真骨頂をみせたのはこの後で、宿で一息入れてからマイカー2台に分乗して温泉街のホテルへ行き、日帰り湯を楽しみました。ちょうど立秋のこの日、まぶしい陽射しと吹き抜ける風の心地よい露天風呂は貸切同然だったこともあり、裸談義が思わず長引いてしまい、約束の時間に上がった女性陣をお待たせしてしまいました。

がんばりグループが戻ってから夕食前の小宴会。この日の目玉は「蒙古王」という珍酒(アルコール39度だったかな?)。乾いた熱さが口の中に一気に広がる感じで、スッキリした飲後感。続けて飲んだ「神戸ワイン」がやたらと口当たり良くまろやかに感じました。この日の夕食は中華料理のコース。東京出身というご夫婦を娘さんが手伝うこの宿の料理はなかなか手が込んでいて、何を食べてもおいしく、接遇を含めてとても気持ちのいい宿でした。ここをベースキャンプに決めたリーダーの慧眼にも改めて感服しました。

この日も星空観賞会があり、やや雲がかかっていたのですが、見える範囲の星はチカチカと前夜よりはっきり見えました。さらに林の中ではホタルがチカチカ点滅していました。

3日目、青空は見えましたが、前日より雲の多い空でした。急用ができて先に帰る小川戸さんを見送り、この日は皆で一緒に後烏帽子岳(1681m)へ登りました。えぼしスキー場のゴンドラでは、前を行くゴンドラが霧雨の中に消えて行きました。リフトに乗り継いで登山口へ。係の人から「この雨は1時間ほど前から降り出した」、加えて「最近、クマの目撃情報があるので、できるだけ声を出して歩くように」との言。しっかりと雨具をまとい、クマ対策では「2番目を歩く人が危ない」というあまり根拠のなさそうな話をしながら山道に入りました。針葉樹林の中の、単調というか無駄がないというか、手入れの行きとどいた登り一方の道を1時間少々、広葉樹林帯に入る頃には口数も少なくなりましたが、幸いクマに遭遇することもなく山頂に着きました。



後烏帽子岳は前2日間とも緩やかな三角錐の山容を見せていたので、山頂からの展望に期待をしていましたし、頂上は灌木が生えた岩場でしたので、晴れていればもちろんその展望を得られたはずですが、あいにく周囲は一面真っ白い世界でした。下りは気が楽になったせいか、クマ除け効果は別にして、おしゃべりの声が高くなりました。何故か家庭生活面の話題が多かったように思います。結局ゴンドラ駅に戻るまで3時間の歩行中、雨が止むことはありませんでした。

宿に戻り、濡れた衣服を着替えて、遅めの昼食を兼ねた打ち上げ会となりました。生ビールで乾杯、続いてワイン。もちろん美味しい料理の数々。約2時間、賑やかに和やかに、様々な話題で盛り上がり、お開きとなりました。

リーダーの合宿計画書は次のような書き出しになっています。
「蔵王はロープウェイに乗って御釜を見に行く観光地だと思いがちですが、ロープ

ウェイの駅から熊野岳周辺の賑やかなところを外れると、東北の山々に多い湿原や
笹原などが広がる、好ましい山域です。」

私自身、車を利用して山裾の温泉に泊ったり、お釜を覗いたりして、ハイキングの
対象として考えたことのない山域でしたが、夏山としての大きな蔵王を実感してきました。

来年は8月5日(日)～7日(火)、行く先と行程は、次もリーダーとサブリーダーにお任せ
することで、もちろん異議は出ませんでした。

天候は今一つでしたが、山も宿もすてきな3日間でした。

皆さん！ どうもありがとうございました。

さあ、あす未明はいよいよ女子サッカーの日米決戦です。「がんばれ！なでしこ」

夏合宿サブリーダー補:五十嵐 昭